ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム (派遣) ダイバーシティマネジメント報告書①

報告日:2019年3月12日

派遣者所属名	保健学研究科
派遣者氏名	種村 留美
調査対象機関名	Glasgow大学(UK)
(派遣機関含む)	

調査項目

1) 女性上級職役員数 1名

教員数 (Research group別 women/all staff)

Research group	women/all staff
Compared Dreasting & Drimory Core	15/22
General Practice & Primary Care	(68%)
Mantal Haalth & Wallbains	41/58
Mental Health & Wellbeing	(71%)
Public Health	7/13
Public nearth	(54%)
Health Economics & Health Technology Assessment	14/22
Health Economics & Health Technology Assessment	(64%)
Robertson Centre for Biostatistics	8/16
Robertson Centre for Brostatistics	(50%)
MRC/CSO Social & Public Health Sciences Unit	48/65
MRG/GSO SOCIAL & PUBLIC HEALTH Sciences Unit	(74%)
Social Scientists in Health	8/11
SUCTAT SCIENCISES IN HEALTH	(73%)

- 教授数(30人) うち女性教授数(12人) 女性教授の割合は 40%Athena SWAN*でゴールデンアワードを受傷している。
- ・上記の女性教授陣の中には、明らかに、素晴らしい・目指すべきrole modelsとなる女性教授がいる。 ⇒モチベーションのアップ・歩む道などが明確になり、女性教授への道筋がつきやすくなる。
- ・gender equalityに対して、長期にわたるcommitmentを実施している(少なくとも16年間)
- ・論文執筆のための女性研究者に対するワークショップを実施している。
- ・子どものいる研究者が参加できるように会議時間は10時~16時の間に行っている(勤務時間は9時~17時)
- ・勤務時間以外はメールのやり取りは行わない。
- ・子どもが発熱した際にも、勤務できるようなサポートシステムがある。
- ・大学内に保育所がある。

・Glawgow大学内で実施しているAthena SWANのSELF-ASSESSMENT ((添付資料P14)	を実施する
ことで、どうやって研究者として成長していくべきかの行動計画	(Action Plan)	を立てるこ
とができる。		

・action plan や promotion workshops を実行することが、進む道筋を助けてくれる。

調査協力者: Glasgow University: 女性教授

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム (派遣) ダイバーシティマネジメント報告書②

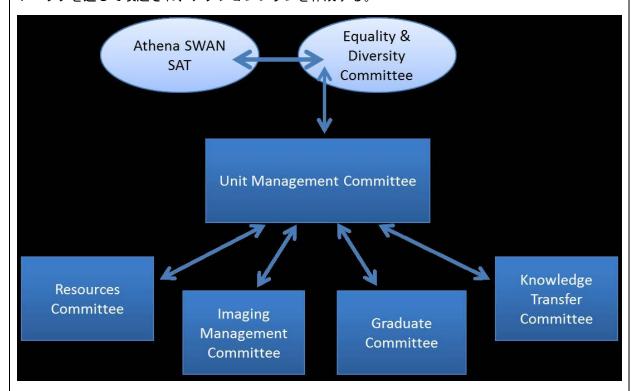
報告日:2019年3月12日

派遣者所属名	保健学研究科
派遣者氏名	種村留美
調査対象機関名(派遣	Cognition and Brain Sciences Unit(CBSU), Cambridge大学(UK)
機関含む)	

調査項目

Athena SWAN憲章にて2014年にシルバーアワード受賞している。

CBSUのSelf-Assessment (SAT) チームは、下記の図のように、キーの委員会であるResources Committee, Imaging Management Committee, Graduate Committee, Knowledge Transfer Committeeからのフィードバックを通して喚起され、アクションプランを作成する。

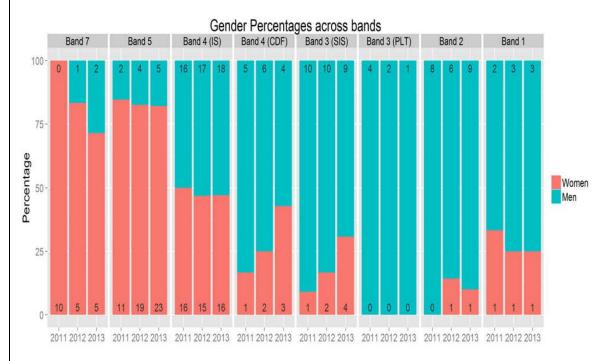


意思決定機関の女性の割合は下記のとおりである。

Committee	Total	.	Ĩ	%
Athena SWAN Self Assessment Team	14	8	6	57
Equality and Diversity Committee	10	7	3	70
Environment Committee	6	3	3	50
Graduate Committee	8	5	3	68
Health & Safety Committee	5	3	2	60
Imaging Management Committee	15	3	12	20

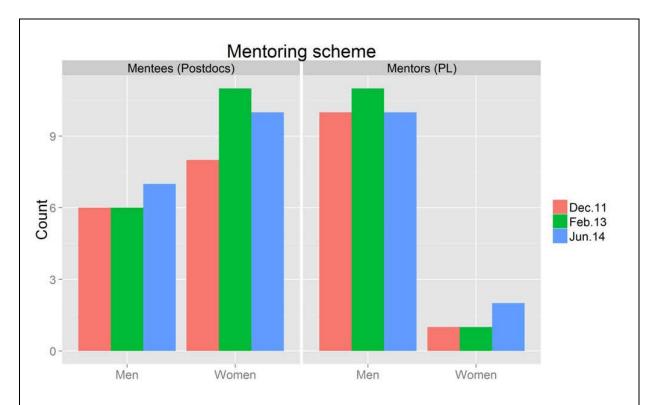
IT Steering Group	9	1	8	11	
Knowledge Transfer Committee	8	4	3	57	
MEG Management Committee	6	3	3	50	
MRI Management Committee	3	2	1	67	
Resources Committee	6	2	4	33	
Unit Management Committee	13	5	8	38	
All committee	103	46	57	48	
Key Committee	42	14	27	37	

- ・CBSUの教員数(119人)うち女性教員数(28人)
- *Bandごとの教員の男女比率が下記である。Bandの内訳については特記事項に記載した



女性のための科学イベント

- ・ポスドクのための、女性のシニアロールモデルに役立つイベント:卒業生を呼び、彼女たちのキャリアパス、挑戦、方略について語ってもらう
- ・発展とトレーニング: 研究のマネジメント、プレゼンのスキル、基金のアプライ、スーパービジョン、論文執筆、交渉スキルなどのワークショップを開催している
- ・メンタースキーム: 2010年にポスドクのサーベイのために、ポジティブにフィードバックを行っているが、女性メンターを増やしている。



- ・近年、女性のための新しい基金を導入した。パートタイムで働く研究者が、勤務日以外の日に学会・ ミーティング・カンファレンスに出席する場合、研究者自身の持ち出しの出費がかかるので、その基 金で出費を補填する。
- ・子どものいる研究者が出席できるように、毎週のセミナーの時間を変更する。
- ・レストランに行って行うセミナーなの代わりに、お昼にお茶とケーキでのセミナーを行う。
- ・大学内に保育所がいくつかある。
- ・子どもの学校の長期休暇の間、Playscheme (子どもために、遊び(手芸・コンピューターetc.)・運動 (サッカー、バスケetc.) などのスキルを伸ばすクラブ)を開催している。
- ・'My Family Care'という事業計画がある。事前に毎年emergency childcareにお金を払うと、急に子どもが病気になっても、childcareスタッフが自宅に訪れ、子どもをみてくれる。そのため、職員は仕事に行くことができる。

調査協力者: CBSU, Cambridge University: 女性教授

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム (派遣) ダイバーシティマネジメント報告書③

報告日:2019年3月12日

派遣者所属名	保健学研究科
派遣者氏名	種村留美
調査対象機関名	Karolinska Institutet (Sweden)
(派遣機関含む)	

調査項目

Staff	2017	2016	2015
FTE, full time equivalent, employees	4, 749	4, 820	4, 694
- women (%)	61	61	61
Avarage annual number of employees (3)	5, 405	5, 334	5, 193
Teaching staff (FTEs)	860	863	853
- women (%)	49	48	48
Teaching staff with doctoral degrees (FTEs)	797	795	776
- women (%)	47	47	45
Professors (FTEs)	363	368	372
- women (%)	30	30	

- ・勤務時間は9-17時。
- ・特別なプログラムはないが、女性上司の多い職場であるので、その時々でメンターとなるような女性の教授が居る。
- ・パソコンを経由して、在宅ワークも可能。
- ・スェーデンでは、Child allowanceという子ども手当てが16歳まで受けることができる(日本より高額)、それを利用してベビーシッター費用などに当てて共働きを続ける家庭が多い。調査協力者: Karolinska Institute: 女性教授